

2009 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 63 巻第 2 号～第 6 号および第 64 巻第 1 号を編集し、発刊した。報文 22、総合論文 3、ノート 1、総説 4、解説 20、資料 1、寄書 1、塩コーナー 1、研究室から 1 の計 51 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 490 頁であった。なお、第 63 巻第 2 号から第 64 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「環境の未来を拓く膜とイオンー海水、排水、超純水」、「海からの贈りもの：ミネラル・生物・地域振興」、「海水の科学の多様性ー分子から大洋まで」、「西日本の海水研究」、「第 60 年会シンポジウム：海水の前処理と膜ファウリングーイオン交換膜と逆浸透膜」と「第 60 年会：技術交流セッション」、「マイクロバブル・ナノバブルとその応用」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 21 年 6 月 4 日(木)～5 日(金)の会期で、東京大学山上会館において第 60 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 28 件、ポスター発表 22 件であった。ポスター発表のうち 20 件が口頭発表との重複発表であり、16 件が 35 歳以下の発表者であった。学術賞受賞講演 1 件があり、173 名が参加した。また、学術賞 1 件、技術賞 2 件、奨励賞 1 件および功労賞(田中賞)2 件の表彰を行った。

3. 西日本支部の活動

1) 平成 21 年度幹事会

平成 21 年 6 月 5 日、第 1 回西日本支部幹事会を開催した。出席者は 7 名。

2) 会誌特集号の企画、編集

第 63 巻 5 号(西日本支部特集号)を、「西日本の海水研究」の特集号として、企画、編集した。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

①荷電膜コロキウムの開催

第 39 回(平成 21 年 7 月 31 日、東工大国際交流会館、講演 2 件、参加者 14 名)および第 40 回(平成 22 年 3 月 26 日、東工大蔵前会館、講演 3 件、参加者 15 名)を実施した。

②新荷電膜事業の実施

「産・学・学会ジョイントセミナーー水と環境を核とした連携を探るー」の開催(平成 21 年 10 月 9 日、秋田大学手形キャンパス、講演 2 件、話題提供 4 件、ブース展示 2 件)

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

研究会例会の開催

第 49 回(平成 21 年 6 月 18～19 日、(財)塩事業センター海水総合研究所、講演 2 件、実験講習、参加者 6 名)を実施した。

3) 環境・生態系・生物資源研究会

①会誌特集号の企画

海水誌 63 巻 3 号に「海からの贈りもの：ミネラル・生物・地域振興」と題する特集を企画し、同発刊に協力した。

②シンポジウム等の企画・開催(準備)

今年度のシンポジウム「安全およびECOをキーワードにした海面養殖技術の開発と海洋環境保全に関する取り組み」はチリ地震関連の津波警報により中止。次年度の塩セミナーおよび塩シンポジウム開催に向けて塩釜市等と協議・準備中。

4) 塩と食の研究会

情報誌第7号の発行。

5) 分析科学研究会

①ニュースレターの配布

第8号、9号を発刊した。

②セミナーの開催

「塩の品質と分析および塩の包装表示に関するセミナー」(平成21年12月10日、エスアイ・ナノテクノロジー(株)、講演5件、参加者38名)を実施した。

③ミニシンポジウムの開催

平成22年3月15日、味の素(株)ライフサイエンス研究所、講演3件、参加者22名。

④見学会の開催

味の素(株)川崎工場、ライフサイエンス研究所(平成22年3月15日、参加者21名)の見学会を実施した。

⑤技術支援活動

「塩分析技術講習会」(平成21年7月23日、沖縄県工業技術センター、参加者10名)に技術支援として講師2名を派遣した。

6) 海水資源・環境研究会

①セミナーの開催

「海水資源・環境研究会セミナー2010—海水資源総合利用プロセスの構築を目指して—」(平成22年3月15日、(財)塩事業センター海水総合研究所、参加者38名)を実施した。

②データベース作成

海水誌掲載の報文をPDF化およびデータベース化を行い、全報文についてPDF化が終了した。

③研究シーズの探索および研究テーマの策定

海水資源利用技術に関する可能性を探索するための分科会(以下、可能性探索分科会)での活動を推進し、製塩と淡水化のハイブリットプロセスを中心に、様々な副産物を回収可能とする海水高度利用プロセスの体系図を作成した。

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年3回の編集委員会を開催した。第63巻第2号～第6号および第64巻第1号を企画・編集・発刊した。第64巻以降は毎巻の第3号に年会講演要旨集を掲載することとし、掲載に向けた課題を整理、検討した。また、第65巻第6号を日本海水学会創立60周年記念号として発刊することとし、発刊に向けた検討を開始した。編集委員会内規を現状に合わせて改定するとともに、編集委員会規約の改正に向け原案を作成することにより、組織体制、役割を明確化した。論文審査手順をマニュアル化し、一貫した審査体制を構築した。転載許可書、執筆依頼書(和・英文)の雛型を作成し、対外文書の書式を統一した。会誌のアーカイブ化についてアンケート、調査を実施する等、理事会と調整しながらアーカイブ化を図ることとした。PDFファイルの転載許可、別刷りPDFファイルの販売について検討を開始した。

2) 研究委員会

研究会役員名簿を整備するとともに、各研究会の活動状況や資金状況を明らかにし、相互チェックできる体制を整えた(代表、総務幹事、会計担当に加え、会計監査担当の設置を依頼)。学会からの交付金の予算計上についても、研究委員会で調整した。研究会の活動を海水学会員に如何にして伝えるか、また、研究会活動を会員増につなげる方策などについても意見交換した。

6. 若手会の活動

1) 若手会規約の制定

学会会則に若手会規約を定めることを目的として、若手会規約案を作成し、理事会および総会にて承認を得た。

2) 「第9回若手の集い」の開催

以下の通り開催した。

日時：平成21年6月3日(水)18:00~20:00

場所：東京大学山上会館地下1階(東京都文京区本郷 7-3-1)

内容：研究者・技術者間の親睦を目的とした交流会。

3) 「第1回技術交流セッション」の開催

第60年会ポスターセッションにおけるポスターセッションを一層活発なものとするために、従来の学術研究に関するポスター発表に加えて、参加者の交流を目的とするセッションを設け、「技術交流セッション」として、下記の通り企画した。

日時：平成21年6月4日(木) 15:00~16:30

場所：東京大学山上会館

4) 「第1回学生発表会」の開催

学生に対する教育機会の場を提供することを目的として、「大学4年生」および「大学院修士課程の学生」を対象とした学生発表会を新たに開催した。

日時：平成22年3月12日(金) 10:00~19:00

場所：千葉工業大学 津田沼校舎 7号館4F 7403-7405 教室 他

内容：口頭発表18件、特別講演2件、研究室見学(尾上研)、懇親会

5) 学会誌(第63巻第6号)特集の企画編集

第60年会における若手会の企画ポスターセッション「技術交流セッション」の受賞発表内容を中心として、特集を企画編集した。

6) 「第10回若手の集い」の企画

“水処理”をキーワードとした見学会を以下のとおり企画した。

日時：平成22年6月2日(水) 12:30~20:00

場所：火力発電所、麒麟ビール仙台工場

7) HPのリニューアル

以下のリニューアルを実施した。

①「若手会会長のあいさつ」を掲載

② 若手会の紹介ページの更新

③ 過去の活動内容の紹介(学会誌第55号より毎4号に年会記事として掲載されている若手の集いの報告記事を転載)

8) 会員へのメール配信システムの改善

会員への情報発信を充実させるため、新システムを構築した。(無料メールサーバ(nifty)の利用を停止、オリジナルシステムを構築)

9) 第3回役員会の開催

日時 平成21年6月3日(水) 16:00~18:00

場所 東京大学 工学部14号館429号室

以下の内容について議論した。

- ①平成20年度の活動報告
- ②平成21年度の活動計画
- ③若手会規約および規則について
- ④役員体制の交代について
- ⑤「第9回若手の集い」について
- ⑥「第10回若手の集い」について

10) 会員数(平成22年3月17日現在)

41名(昨年3月より8名増)

7. 事務改善

ホームページ・学会誌を通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引き続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会14名、退会12名、年度末現在 376名

維持会員：入会1社2口、退会4社8口、年度末現在 45社428口